

♪雨の日も前に一步ずつ よろこびの丘に登ろう（彩都の丘学園校歌より）

校長 桑野 啓子

例年よりも遅い梅雨入りを迎えて、学園内外のあじさいが美しく咲いています。6月には警報はでなかったものの激しい雨の日もあり、PTAさんや地域の方々の見守りも大変ありがたいことでした。またスクランブル交差点の点滅がいつもより短いことを学園から箕面警察に連絡を入れましたところ、故障とのことで、今週には修繕してくださいます。青少年を守る会さんもご心配をいただき、同様に警察に連絡を入れてくださいました。保護者さんはもちろんですが、青少年を守る会さん、防犯委員さん、彩都地区防災委員会さんを含めた多くの地域の方々が、学園のみならず、彩都地区全体の安全を支えてくださり、心強くありがとうございます。

さて、6月が終わり、いよいよ1学期の締めくくりの7月になります。4月の緊張感もとけて、6月の子どもたちは、伸び伸びとクラスづくりや、運動や学習に取り組んだ日々だったと思っております。しかし自身の言動を顧みて、まわりの人に「ごめんなさい」を言わねばならないこともあります。自身の言動が他にどんな悲しい思いや辛い思いをさせたのかについて、しっかりと向き合い反省したことにより、次は自分が他の人たちの心の痛みのわかる人になっていけると信じております。失敗から学ぶ子どもたちであると信じて、保護者のみなさんと一緒に子どもたちを支えて参りたいです。

校長室には、学園校歌の作詞・作曲者松本雅隆さんが来校されたときのメッセージを飾っております。「歌詞にどんな言葉を入れるのかを当時の子どもたちから募集した」と書かれています。少し紹介します。①2011年の津波の被害を見て、自分たちは自然、地球を大切にしたいと考えた。実際に箕面彩都に来て、街や丘の風景を見て歌詞が浮かんだ。②歌詞「耳をすます」にこめた4つの想いがある。風に耳をます。君に耳をます。地球に耳をます。自分に耳をます。家族の声、友だちの声、先生の声・・・等様々な音や声に耳をすましてほしい。③「箕面（ここ）は私たちのふるさと 彩都の丘 夢みる学園」この街を離れても、ふるさと彩都を思いながら歌ってほしい。

4月始業式では「自分の思いと同様にまわり人の思いも想像しながら、一人ひとりが安心して学園生活を過ごせるようにしよう」と話をしました。1学期の終わりの日にみんなで校歌を歌いながら、「いろいろな声をよく聞いてがんばれたなあ」と振り返ることができるように、7月を過ごしていきたいと願っています。今日からの個人懇談もどうぞよろしくお願いします。少し早いですが、保護者のみなさんには、1学期多くのご協力を賜りまして、大変ありがとうございました。